

【やりとりと判定の実例：A2◎】

<ロールカード>

あなたは仕事で日本に来て、明日帰国します。急に具合が悪くなったので病院に来ました。
 医者の質問に答えてください。

T：テスター、S：受験者

はつわらい 発話例	はんてい ごんきよ 判定の根拠
T：どうしましたか。 S：あ、ちょっとのどが痛いんです。あ、んー、熱も少しあります。でも、明日はうちへ帰らなければならないんですが。どんな薬を飲んだ方がいい。① T：あー、そうですか。いつからですか。 S：あ、昨日からです。 T：んー、そうですか。夜、眠れましたか。 S：はい、寝ました。 T：あー、そうですか。 S：あの、うちの薬も飲みましたけど、あー、熱も少しあります。② T：あー、そうですか。分かりました。じゃあ、熱の薬と、のどの薬を出しますから、あの、ゆっくり休んでください。 S：はい。 T：明日はもう帰るんですね。 S：はい。明日の夜は、あの、もう時間だから、今日来ました。 T：分かりました。じゃあ、もし、えっと、もったのどが痛くなったら、明日のお昼に来てくれますか。 S：はい、分かりました。	①～③聞かれたことに答えるだけでなく、自分から状況を説明することができる = 苦労なく簡単なことばで応じ、タスクが達成できる。

この例では、病院で、どこがどのくらい痛いかなどの簡単な質問に対して、短い簡単な言葉で答えられるかどうかで、タスクが達成できたかどうか判断します。この例では、聞かれたことに対して答えるだけでなく、①～③の発話で自分から状況を説明したり、どうすればいいかを相談したりしながら、自分から話を進めています。判定の指標に照らし、この受験者は◎と判定します。なおテスターは、「明日はもう帰るんですね。」と働きかけをして③の発話を引き出していますが、「明日もう一度来て下さい。」と働きかけをし、事情説明ができるかどうかを確認することができれば、◎の証拠をよりはっきりと引き出すことができたでしょう。